

# 排尿自立指導料研修会参加者の研修内容の理解度について

高橋陽子<sup>1)</sup> 内田陽子<sup>2)</sup> 町田恵理子<sup>1)</sup> 杉戸和子<sup>1)</sup>

河端裕美<sup>1)</sup> 小坂橋梨香<sup>2)</sup> 藤田真介<sup>3)</sup> 江熊広海<sup>5)</sup> 美原盤<sup>5)</sup>

1)美原記念病院 看護部 2)群馬大学院保健学科研究科

3)美原記念病院 リハビリテーション科 4)美原記念病院 医師

**[目的]**新設された排尿自立指導料算定のためには、排尿ケアチームの構成メンバーは適切な研修の修了が条件となった。これを受けて各地で研修会が開催されている。この研修を現場で活かすためには、参加者が研修内容を十分に理解できるものでなくてはならない。そこで、我々が企画した研修会の参加者の理解度を調査し、今後の研修会の改善に結び付けたいと考えた。

**[方法]**研修会に参加した看護師 114 名を対象としアンケート調査を行った。主な質問は、①参加の背景、②研修内容の理解度(LUTSの病態、診断、治療、排尿ケア、や残尿測定等で4点満点)、③研修後の意欲、自信(100点満点として)とした。尚、本研究は所属機関の倫理審査委員会より承認を受けて実施した。

**[結果]**参加動機の79.8%は、上司の指示によるもので、参加費は病院負担が98.2%だった。理解度が高かった項目は「清潔間欠導尿、自己導尿」 $3.6 \pm 0.5$ 点、「残尿測定」 $3.5 \pm 0.5$ 点であった。低い項目は「LUTS治療」 $3.1 \pm 0.4$ 点、「LUTS病態と診断」 $3.1 \pm 0.4$ 点だった。研修後のチーム活動の意欲は66.2点、自信は49.7点であった。

**[考察]**病院管理者の指示による参加が多かったことは、管理者が診療報酬制度を意識していることが伺える。通常の看護技術をベースとした研修項目については理解度は高かった一方、治療、病態等に関して理解度は低く、看護につなげるアセスメント能力取得のために研修内容を工夫することが課題と思われた。